

「とみおかアーカイブ・ミュージアムの歴史資料と震災遺産の保存活用」



2021.7.11 とみおかアーカイブ・ミュージアム開館の日の朝、展示室内にて

2024.1.8

富岡町教育委員会 三瓶 秀文



震災前の富岡町桜まつり



津波の被害を受けた富岡駅



原発事故により長期の避難が続くなか掲げられた横断「富岡は負けん！」

福島県富岡町「東日本大震災・原子力災害の記憶と記録」より

福島県富岡町は2011.3.11に発生した東日本大震災による地震・津波の被害に加え、原子力発電所の事故によって全町避難を余儀なくされた。避難指示継続中から自然災害からのインフラの復旧や除染などの取り組みが継続。

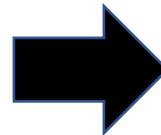
2017.4.1から一部区域を除いて避難指示が解除され、住民の居住が始まるなど復興再生へ向けた取り組みが続いている。

文化財の搬出作業 (2012年～)

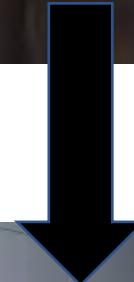


線量計測 (カード作成)

○			No.
資料名	寄贈 寄託		
所有者			
持出年月日	平成24年 月 日		
持出時線量	①	cpm	()
	②	cpm	()
	③	cpm	()
保管履歴			
施設名	年月日	備考 (cpm)	
	~		
	~		
	~		
	~		
	~		
富岡町歴史民俗資料館			



梱包作業



仮保管施設
(福島県文化財センター白河館 敷地内)

警戒区域外へ搬出



運び出しを待つ資料

被災文化財等救援本部の設置と行政所有文化財の搬出

2012.5月に設置された福島県被災文化財等救援本部で、国・国関係機関・福島県・被災した自治体が協力して警戒区域からの文化財保全を行う体制を構築した。

作業はまず歴史資料に付着した放射線量を記録し、1,300cpm以下の資料を対象に警戒区域の外へ運び出すことに始まり、資料が移動するたびに放射線量を記録し、警戒区域外に設置された仮収蔵施設に仮保管を行った。

富岡町歴史・文化等保存プロジェクトチームの活動 (2014年～)



富岡町歴史・文化等保存プロジェクトチーム (発足：2014. 6. 19)



保全された資料

作業は

- 必要性が生じた際に招集
- 日程調整可能な職員のみ参加
- 救出作業は町内



福島大学との合同資料整理作業



町内でのフィールドワーク

公有の文化財の搬出作業が富岡町で終了したのに伴い、民間の住宅などでこれまで保管・管理されてきた文化財・歴史資料に対しても保全の対象とするため、富岡町では独自の取り組みとして平成2014年6月から町職員が所属部署を横断して参加する「富岡町歴史・文化等保存プロジェクトチーム」を設置してこの問題に継続的に取り組んだ。

2015年8月27日には富岡町と福島大学の歴史・文化等保全活動に関する協定を締結し、合同での資料整理作業やフィールドワークなども行っている。

富岡の歴史と震災の記憶を守るために
富岡町歴史・文化等保存プロジェクトチーム
活動報告／平成27年度の取り組み

平成27年度の取り組み — 「心の復興」のためにできること —

『新編・富岡町史』編さんに向けて

富岡地域の成り立ちや歴史的な背景を記録し、後世に伝える町の歴史書が町史です。今後、新たに作成する町史は、「ふるさと富岡」を懐かしむ材料としてだけでなく、すでに刊行されている町史に記されていない約30年間の地域の歩みの記録や今回の震災と原発災害の総括を含んだ内容となります。

新たな町史編さんでは、資料保全作業などで皆さんからお預かりした地域の資料から、新たに判明した事柄や補足できる内容を丹念に整理し、地域の歩みを描いて参ります。町は、富岡の歴史・文化を守り、震災と原発災害の記録・教訓を世界と未来に伝えるために、新編町史編さんの準備を進めます。

積極的な歴史資料の救出

町内の復旧・復興が進むにつれて、建物の取り壊しなどにより歴史資料が失われる恐れが増しています。「地域の成り立ち」を知る手掛かりとなる貴重な資料を守るため、これまでより積極的に町内の旧家や蔵の場所の情報収集をし、所有者に保存を呼びかけます。



「富岡町史(1989年)」と「富岡町の文化財(1990年)」



町内から救出した歴史資料

歴史資料保全のお願い — ご自宅に古い手紙や読めない文字の書状はありませんか? —

町は、町民の皆さんからの情報提供をお待ちしております。

- ・所有権はそのまま、管理だけを町が行う【寄託】
 - ・町に寄贈していただき、管理をする【寄贈】
- など、歴史資料を保全するため、様々な方法で対応いたします。



歴史資料の例

【連絡先】
富岡町役場教育総務課生涯学習係
電話：024-953-6266
FAX：024-953-6304
メール：tom0700-0@tomioka-town.jp

- 【協力】**
- ・県被災文化財等救援本部
 - ・福島大学つくしまふくしま未来支援センター
 - ・ふくしま歴史資料保存ネットワーク

古い記録や書類、手紙などは、地域の歴史を物語る大事な資料です。虫食いでぼろぼろであったり、見た目の状態が悪くても貴重なものです。小さな情報でも結構ですので、お気軽にご連絡ください。



歴史資料救出の様子



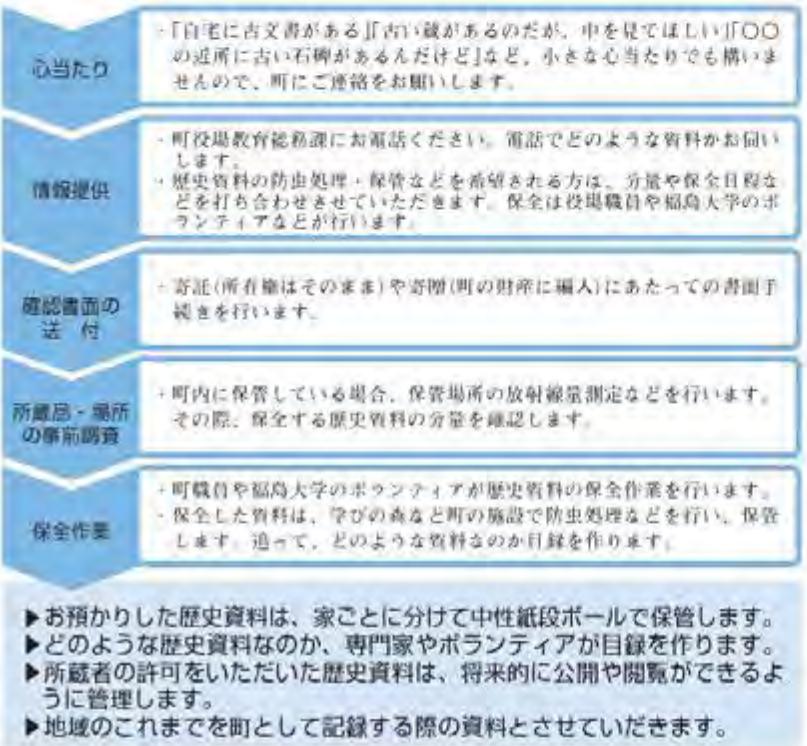
震災遺産として保全されたミチ美容室の時計

町では昨年6月、富岡地域の歴史を守るために様々な史資料の保全活動を行う「富岡町歴史・文化等プロジェクトチーム」(以下PT)を発足させました。PTではこれまで、考古・民俗・文書資料や写真、絵図など地域の歴史を物語る史資料を保全してきました。また、歴史的災害の被災地として、震災

からの教訓を世界や未来に発信・伝承するために「震災遺産(遺構)」の保全作業も行っています。

※震災遺産(遺構)：震災や原発災害により生じたもので、震災の記憶や教訓を伝承・発信するために保存活用する資料。

◆歴史資料保全の流れ



【歴史資料の救出】



【整理作業】



【歴史資料の活用】

とみおかアーカイブ・ミュージアム

The Historical Archive Museum of Tomioka



【基礎情報】

名称：とみおかアーカイブ・ミュージアム
The Historical Archive Museum of Tomioka
住所：双葉郡富岡町大字本岡字王塚760番地1
電話：0240-25-8644
展示資料数：約430点
収蔵資料数：約5万点

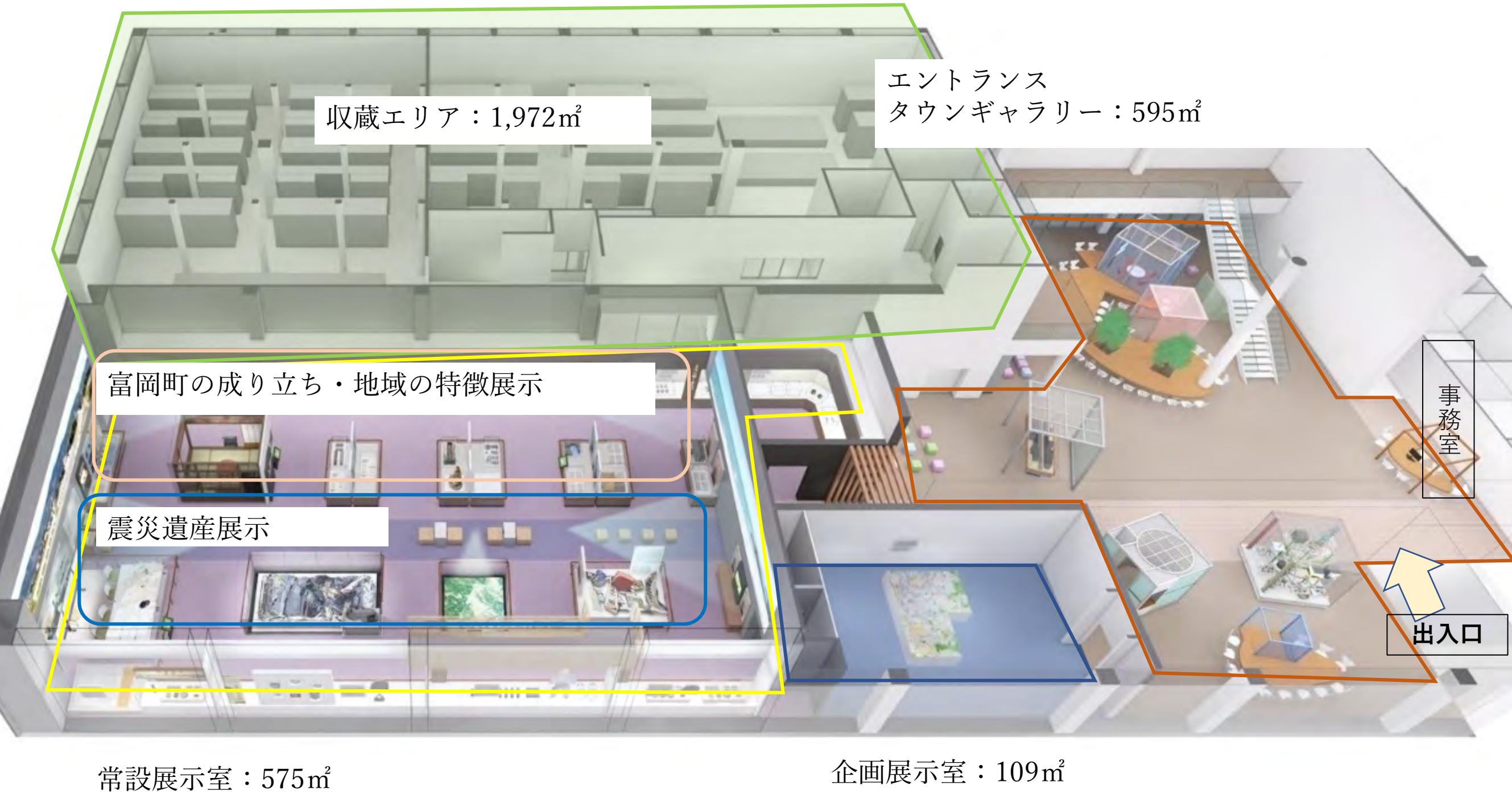
敷地面積	11,991m ²
建築面積（延べ面積）	2,462（3,532）m ²
展示面積（常設・企画）	684m ²
収蔵面積（3層）	1,972m ²
エントランス・タウンギャラリー	595m ²

とみおかアーカイブ・ミュージアムの整備

(整備の経過と作業)

- 2014. 6 富岡町歴史文化等保存PT設立
- 2015.6 富岡町復興計画（第二次）への位置づけ
- 2016.3 震災遺産保全宣言
- 2016.7.15 富岡町アーカイブ施設検討町民会議の設置：7名
町民と有識者(歴史資料保全/震災遺産)
- 2017.3 富岡町震災遺産保全等に関する条例
- 2017.10.30 富岡町アーカイブ施設整備基本構想にかかる提言書の提出
- 2017.11 提言を受けて富岡町アーカイブ施設整備基本構想を策定
- 2017.12 基本設計を発注
- 2019.1.8 富岡町アーカイブ施設整備識者検討部会設置：11名
(有識者＋職員)
- 2018.6.24 整備用地取得
- 2018.7.1 富岡町アーカイブ施設整備事業実施設計業務を発注（～2019.3.15）
富岡町アーカイブ整備事業敷地造成測量設計を発注（～2019.1.31）
- 2019.7.23 富岡町アーカイブ施設建築工事を発注
- 2021.7.11 とみおかアーカイブ・ミュージアム開館

とみおか・アーカイブミュージアムの館内構成



○地域を知る場

- ・東日本大震災・原子力発電所事故以前から暮らしていた人々が、地域の資料や震災・原発事故の被害を改めて見つめる場。
- ・初めて訪れる人々等が地域の自然・歴史・文化、震災・原発事故の被害による地域の変化などを知る場。
(震災後の変化や資料に対しての新しい発見を含む。)

地域の多様な側面をいろいろな角度から展示資料を通して見る。

→「震災・原発事故を地域の歴史の1ページに位置付ける。」

○「保存活用」

- ・資料の「保存活用」を意識したワークショップの開催
- ・自然・歴史・民俗、震災後のこの地域のことが分かる資料の活用

次世代に地域の資料をつなぐ、伝える仕組みが必要

地域の博物館の役割

- 東日本大震災と原発事故の影響拡大による原子力災害の風化防止と経験の発信・継承
- 富岡町の歴史・文化・地域性を伝える資料・情報の記録・保存と継承

アーカイブ・ミュージアムの今後の事業展開が大切。